

図書館通信

最上校図書委員会 No.18 10月24日



11月図書館企画 作品特集 「2022年発表新刊図書展」

『此の世の果ての殺人』 荒木あかね著

滅びゆく世界に残された、彼女の歪んだ正義と私の希望。
正義の消えた街で、悪意の暴走が始まった。

『夜の道標』 芦沢央著

未来は誰にも分からず、子どもは大人を頼るが、大人も不安定だ。
父親の虐待と貧困で立ちすくんでいた波留は、人とかかわりを通して、今まで来たことがない場所に立つ。人間関係は、悲劇と救いのどちらにもつながっている。

『ハヤブサ消防団』 池井戸潤著

東京での暮らしに見切りをつけ、亡き父の故郷であるハヤブサ地区に移り住んだミステリ作家の三馬太郎。地元の人の誘いで居酒屋を訪れた太郎は、消防団に勧誘される。迷った末に入団を決意した太郎だったが、やがてのどかな集落でひそかに進行していた事件の存在を知る。連続放火事件に隠された真実とは？

『君のクイズ』 小川哲著

クイズプレイヤーの思考と世界がまるごと体験できる。人生のある瞬間が鮮やかによみがえる。「不可能犯罪」を解く一気読み必至の卓抜したエンターテインメント！

『リバー』 奥田英朗著

若手新聞記者。一風変わった犯罪心理学者。新たな容疑者たち。
十年分の苦悩と悔恨は、真実を暴き出せるのか？
人間の業と情を抉る無上の群像劇×緊迫感溢れる圧巻の犯罪小説！



2022 第76回読書週間

10月27日(水)～11月9日(火) 14日間

今年度も読書週間が始まります。

食欲の秋・スポーツの秋・芸術の秋・そして、読書の秋！

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割をはたすことは



かわりありません。暮らしのスタイルに人生設計のなかに、

新しい感覚での「本との付き合い方」をとりいれていきませんか。
『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に

制定されました。よりいっそうの盛りあがりや、期待いたします。



新庄北高最上校図書館 11月開放カレンダー

11月図書館企画 作品特集「2022年発表新刊図書展」

日	月	火	水	木	金	土
		①	②	3 文化の日	4	5
6	7	⑧ 2年修学旅行	⑨ 2年修学旅行	10 2年修学旅行	11 2年修学旅行	12
13	14	⑮	⑯	17	18	19
20	21	⑳	23 勤労感謝の日	24	25	26
27	28	㉑	㉒			

※○数字の日が開放日です

2022 年発表 オススメ新刊図書



『世界が青くなったら』 武田綾乃著

ある朝仲内佳奈が目を覚ますと、彼氏の坂橋亮が世界から消えていた。LINE に履歴はないし、電話帳の中の番号もなくなっている。自分の頭がおかしくなってしまったのか、それとも世界の方が壊れてしまったのか？

『刑事弁護士』 薬丸岳著

有罪率 99.9%の刑事裁判に挑む若き女弁護士は真実に辿り着けるのか？事件の背後に潜むのは、幼児への性的虐待、残忍な誘拐殺人事件、そして息子を亡くした母親の復讐心？

『花屋さんが言うことには』 山本幸久著

花を求めるお客さんの事情はそれぞれ。誰かを祝う花もあれば、少し切ない花もある。いろんな想いが詰まったお花を届けているうちに、紀久子は自分の心にもう一度向き合いはじめる。

『夏の体温』 瀬尾まいこ著

夏休み、小学 3 年生の瑛介は血小板数値の経過観察で 1 ヶ月以上入院している。そんなある日、「俺、田波壮太。3 年。チビだけど、9 歳」と陽気に挨拶する同学年の男子が病院にやって来た。低身長のための検査入院らしい。遊びの天才でもある壮太と一緒に過ごすのは、とても楽しい。でも 2 人でいられるのはあと少し。

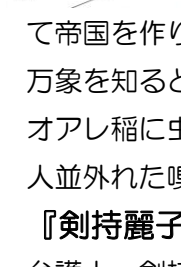
『ロング・アフタヌーン』 葉真中顕著

編集者の元に突然届いた原稿。その内容は彼女自身の忘れられない出来事とリンクしている。「逃げ切るまでが完全犯罪だよ」私たちのシスターフッドがここにある、

『古本食堂』 原田ひ香著

かけがえのない人生と愛しい物語が会おう！

神保町の小さな古書店が舞台の絶品グルメ×優しい人間ドラマカレーや中華やお鮎など、神保町の美味しい食と心温まる人情と本の魅力が一杯つまった幸せな物語。



『朱色の化身』 塩田武士著

「知りたい」それは罪なのか？「聞きたい、彼女の声を」
「知られてはいけない、あの罪を」
「実在」する情報をもとに丹念に紡いだ社会派ミステリの到達点。

『ひまわりは恋の形』 宇山佳佑著

この恋は、夢と現実の遠距離恋愛。どんな国よりずっと遠くて、どんな時差よりずっと永い、世界で一番美しい、究極の遠距離恋愛の物語。

『博士の長靴』 瀧羽麻子著

藤巻博士一家・四世代の歴史と、彼らとの出会いで変化していく人々の生きざまや家族の在り方を丁寧に描いた。

『おいしいごはんが食べられますように』 高瀬隼子著

心をざわつかせる、仕事+食べもの恋愛小説。職場でそこそこうまくやっている二谷と、皆が守りたくなる存在で料理上手な芦川と、仕事ができるがんばり屋の押尾。ままたまらない人間関係を、食べものを通して描く傑作。

『香君（上・下）』 上橋菜穂子著

遙か昔、神郷からもたらされたという奇跡のオアレ稲。ウマール人はこの稲をもちいて帝国を作り上げた。この奇跡の稲をもたらし、香りで万象を知るといふ活神、香君の庇護のもと、帝国は発展を続けてきたが、あるとき、オアレ稲に虫害が発生してしまう。時を同じくして、一人の少女が帝都にやってきた。人並外れた嗅覚をもつ少女アイシャはオアレ稲に秘められた謎と向き合うことに？

『剣持麗子のワンナイト推理』 新川帆立著

弁護士・剣持麗子は今夜も徹夜で謎解き。寝不足必至のミステリ。次々に舞い込む難題を、麗子は朝までに解決できるのか？

『マイクロスパイ・アンサンブル』 伊坂幸太郎著

どこかの誰かが、幸せでありますように。
失恋したばかりの社会人と、元いじめられっこのスパイ。
知らないうちに誰かを助けていたり、誰かに助けられたり……。
ふたりの仕事が悪く交錯する現代版おとぎ話。



※ぜひ、図書館へ